

# 花ちゃん、オー君、モンタ博士のわくわくドキドキ園立ててく2

国立市立国立第七小学校

平成26年9月2日 NO.34 (134)

モンタ博士「やあ！国立第七小学校のよい子のみなさん。夏休みも終わり、いよいよ2学期のスタートだね。大きな事故（じこ）やけがもなく、みんな元気でモンタ博士はとってもうれしいよ。」

オー君 「モンタ博士！2学期はとても長いですね。運動会や展覧会（てんらんかい）、遠足、いろいろな見学（けんがく）など、楽しいことがいっぱいだ。」

花ちゃん 「そうね。これからは、気候（きこう）もよくなって、読書（どくしょ）の秋、勉強（べんきょう）の秋、スポーツの秋ですね。」

オー君 「でも、まだまだ、暑（あつ）い日もあるよ・・・。」

花ちゃん 「今年の夏はとても暑かったわ。でも、もう秋はそこまで来ているわ。朝や夜は少しずつ涼しくなってきたし、虫の鳴（な）き声も聞（き）こえるようになったわ。」

オー君 「でも、まだ夏だよ。あさってころからまた30度くらいになって、暑くなるって、天気予報（てんきよほう）でも言ってたよ。」

花ちゃん 「いいえ、もう秋のはじまりです。」

オー君 「いやいや、まだ夏だ。」

モンタ博士「あらあら、けんかはいけないよ。仲良（なかよ）くしようね。まあ、夏といえば、まだ夏だし、秋といえば、もう秋と言ってもいいかな。」

オー君 「もう、どっちなの。わかんなくなっちゃった。」

モンタ博士「あのね、『春』は光の中に、『秋』は風とともに・・・なんてよくいうね。」

花ちゃん 「そうね、そういえば、春が近（ちか）くなると・・・。」

オー君 「『光の春』なんて、よくいうよね。」

花ちゃん 「そうね、そういえば、朝や夕方など秋が近づくと・・・。」

オー君 「すずしい風がふくよな。」

モンタ博士「そうだろう。大切なことはね、自然のようす。つまり、虫や草花などの生き

物、風や光、星や水や空気の変化（へんか）に気づくことなんだ。」

花ちゃん 「そうか、そういうものから、季節（きせつ）を感じとればいいんですね。」

オー君 「そうか、そういうものから、季節を知ればいいというわけだ。」

花ちゃん 「大切なことは、カレンダーなんか

じゃなくて、自分の目や耳など、

体で知るという

ことですね。」

モンタ博士「そうだね。植物は、

季節との関（かか）

わりの中で、名前が

つけられたものもたく

さんあるんだよ。

きょうは、その中で、

秋という名前のつく

植物で、モンタ博士の

お気に入りの『アキノ

タムラソウ』を紹介

（しょうかい）しよう。」

## アキノタムラソウ（シソ科）

サルビア・ヤポニカ (*salvia japonica*)



### アキノタムラソウのつばやき

私はアキノタムラソウというのよ。本当は、秋という名前がついているけど、7月ころから花を咲かせ始めるの。シソ科の植物だから茎が四角いのよ。赤い花を咲かせるサルビアはよく花壇にあるけど、私は野生の自然の野山にあるサルビアよ。学名でサルビア・ヤポニカ (*salvia japonica*) というの。花の色は淡い紫色よ。私によく似たキバナアキギリというのものもあるけど、学名でサルビア・ニッポニカ (*salvia nipponica*) といい花はやや濃いめのクリーム色。両方とも日本にしかない植物なんで一す。